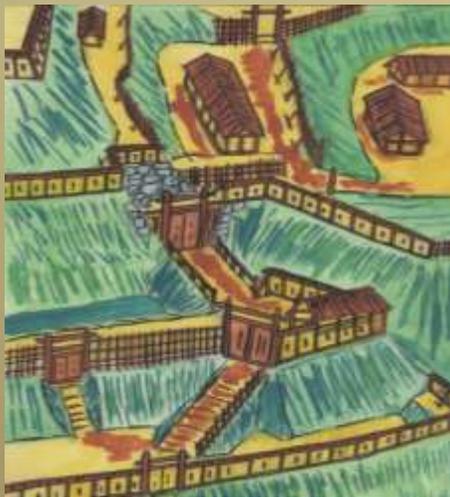
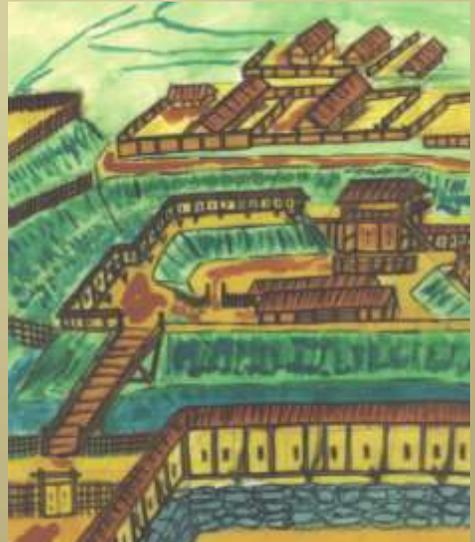


向羽黒山城の入口と門

蒲生氏郷時代に築かれた二曲輪(二ノ丸)西に築かれた虎口石垣。下は門の姿



上杉氏時代に築かれたと推定される大手口は、「伝盛氏屋敷」と呼ばれ、大規模な虎口部分です。16代輩名盛氏が築いた時、勝常寺の僧が書いた漢詩「巖館銘」には、実城、中城、外構と書かれ、大規模な遺構と城下町であったことがわかり、建物は2千棟あつとされています。伊達政宗の家臣が書いた「天正日記」には、要害に度々出かけていることが書かれています。二ノ曲輪の西側虎口には、蒲生氏郷時代の石垣が築かれています。

文責 石田明夫